

平成 23 年 9 月 20 日

三木町長 殿

三木町百眼百考会議  
にぎわいづくり部会 座長 菱谷龍二

## 提 案 書

### 1 提案する施策の名称

生き生きふれあいまつりのあり方

### 2 提案する施策の内容

(1)日時 秋頃とする。

(2)場所 町中心部へ変更する。

(3)目指すべき方向

- ・本町の郷土芸能文化である獅子舞を中心としたまつりを本町特有の地域資源に育て、ブランドとして確立することを目指す。
- ・企画運営から出演も含めた住民参加型のまつりにする。

(4)内容

#### ①イベントプロデューサーを採用

住民行政の要望を聞いたうえで企画を立案し、イベントの全体的な方向性を決め、スタッフを選び、進行管理し、次につなげていくための改善を行うということのためには、豊富な情報量と企画力をはじめ決断力や交渉力などが求められる。そのためには、専門家であるプロデューサーを採用する必要がある。

#### ②体制づくり

プロデューサーを中心に実行委員会と行政が対等な立場で意見を出し合える体制を整える。

#### ③実行委員会の拡充

まつりの実施主体は実行委員会を中心とするが、これまでは限られた団体や関係者で構成されており、一般住民の声が届きにくい面があったため、住民の声を反映できるよう実行委員会に公募委員をできるだけ多く募集する。

#### ④イベント業者への委託

専門的な機材やオペレーターなど必要なものについては、イベント業者への委託も可とする。

#### ⑤住民参加の促進

まつりの実施運営においては、様々な形で住民が参画できる形態にする。

### 3 現状の課題

平成4年に獅子舞フェスタとして始まり、平成7年からは物産まつり、健康まつり、福祉ふれあいまつりを統合して生き生きふれあいまつりへと発展し、さらに平成16年からは獅鼓舞を加え、本町を代表するまつりに成長してきた。「獅子たちの里三木生き生きふれあいまつり」の名はかなり浸透してきたと思われるが、以下のような課題もでてきている。

- (1)運営方法 大部分がイベント業者へ委託され、加えて町職員の大多数が動員されている。
- (2)内容 マンネリ化しており、獅子連、獅鼓舞連以外の参加ができない。
- (3)場所 町中心部から離れており、観客の交通手段が不便である。舞台と観客の距離があり一体感が乏しい。体育施設を使っており、グラウンドや芝生を傷め、後で復旧するのに多大な時間と労力を要している。
- (4)費用 平成22年度で総額2,750万円。うち町補助金2,500万円、協賛金繰越金250万円。支出ではイベント会社への委託料1,700万円や出演謝礼330万円など多額の経費がかかっている。
- (5)観客動員 初回は8,000人、ピーク時は30,000人、平成22年は25,000人で、平成20年から開催日を2日から1日にしたこともあるが若干減少傾向にある。

### 4 提案する施策の実施により予想される効果

- ・様々な場面に住民参画を促すことにより、自分たちのまつりという一体感を持つとともに、まつりに活気と賑わい、ひいては町の賑わい、産業の振興につながる。
- ・まつりのブランド化により、特産品開発等経済面への効果も期待でき継続性も高まる。
- ・獅子舞という郷土芸能文化の活性化につながる。
- ・町中心部で開催することにより、観客の増加、近隣商店への経済効果が期待できる。

### 5 提案する施策の実施に要する費用の額

今後の検討課題とする。

### 6. 改革することにより想定される問題点

- ・交通混雑が予測され、道路規制、交通整理などに多くの人員が必要になると見込まれるので、ボランティア等による協力要員を確保する必要がある。
- ・駐車場が不足すると予測され、周辺施設の協力及び拠点駐車場からのバス輸送などの対策が必要になると思われる。